【組織的な若手研究者海外派遣事業帰国報告書】

人間総合科学研究科　疾患制御医学専攻　高野　恵輔

施設：Henry Ford Hospital, Detroit, United States of America

Cleveland Clinic, Cleveland, United States of America

期間：平成24年4月15日〜7月13日

目的：肝移植・腎移植の手術手技・周術期管理の習得と臨床研究

[研究概要]

1. 肝移植・腎移植の手術手技・周術期管理の習得

日本では、改正臓器移植法の施行から2年が過ぎた。家族の承諾による脳死後の臓器提供や15歳未満の提供が可能になり、昨年は44件が行われた。しかし、15歳未満の提供は2件にとどまり、心停止後の提供を含めた全体数はほとんど増えていないのが現状である。

移植先進国であるアメリカでは、年間8000件近くの臓器提供が行われている。

今回、全米トップクラスの移植症例数を行っているHenry Ford HospitalおよびCleveland Clinicの移植外科において、肝移植・腎移植を経験し、手術手技・周術期管理を学ぶことができた。

移植ドナー手術には助手として手術に参加し、約20症例を経験することができた。これは、日本では脳死後の臓器提供が年間44件しかないことから、日本で同じ症例数を経験しようと思うと、数年以上かかることになる。また、レシピエント手術は、肝移植約30例、腎移植約20例を見学することができた。

1. 臨床研究

肝移植後のHCVの再発をテーマに臨床研究を行った。肝移植後のHCVの再発にはいくつかのrisk factorがこれまでに報告されている。今回我々は移植前後のリンパ球数に注目して解析を行った。対象としたのは、2006年〜2010年までにHenry Ford Hospitalで肝移植を行ったC型肝炎患者200名。リンパ球数（移植前、移植後2週間、1か月）およびレシピエント・ドナー因子を解析した。現在解析結果をまとめているところである。(学会発表、論文投稿予定)